

1 熊本県の地域医療における現状・課題

- ・ 医師の約6割が熊本市に集中。多くの地域で全国平均以下
地域で勤務する医師の安定確保が必要
- ・ 女性医師の増加（全国の大学医学部生の約47%が女性）
出産、育児に関わらず働き続けられる環境整備が必要
- ・ 夜間や休日の当直等、地域で勤務する医師への過大な負担
働き方改革を踏まえ、医師の勤務環境整備が必要
- ・ 医師の専門医志向の高まり
地域勤務とキャリア形成が両立できる支援体制の構築が必要



目指すべき医療提供体制

【医療提供側（医師）の立場から】

- 地域の医療機関の医師が安心して勤務でき、地域勤務とキャリア形成の両立が可能
各地域において、中核的な役割を担う病院の機能強化が必要。

【地域住民・行政の立場から】

- 地域において医師が確保され、安心して医療を受けられる。
医療資源に限られる中、地域の医療機関間で役割分担・連携を行う体制構築が必要。

2 熊本県地域医療連携ネットワークの全体イメージ

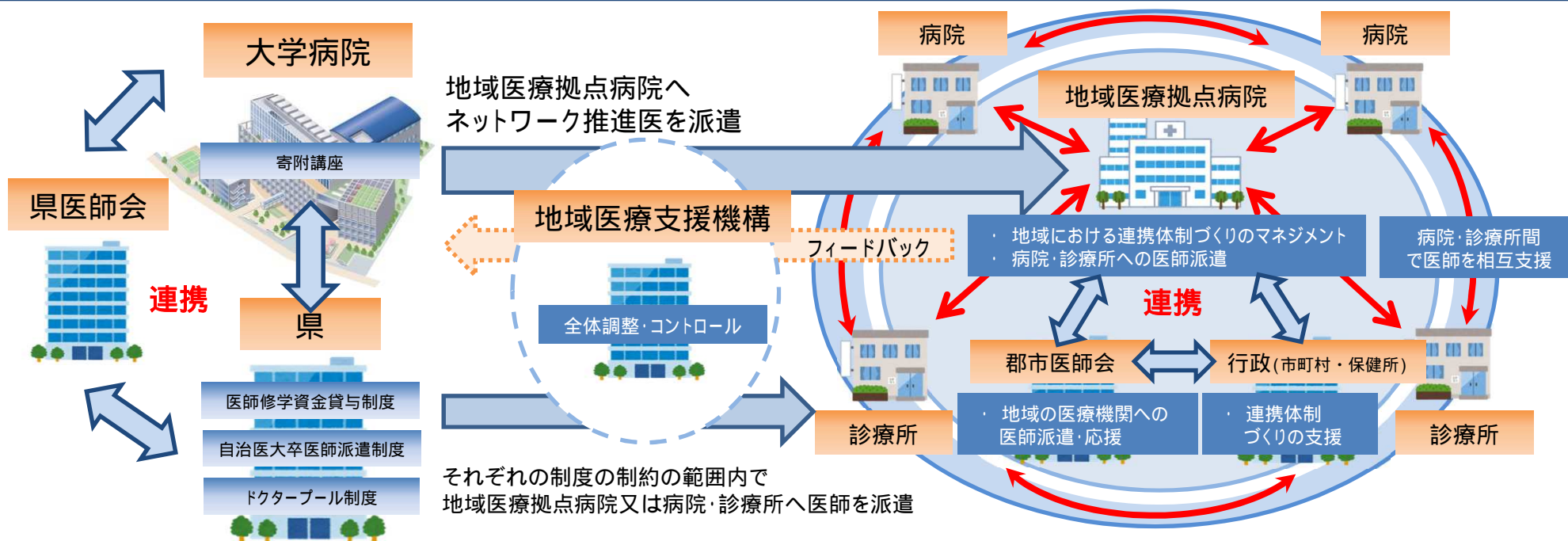
1. 現状・課題

本県の人口は減少傾向にある一方、75歳以上人口は2040年まで上昇し、医療需要も併せて増大労働環境の不安や医師の専門医志向の高まりから、地域勤務を敬遠する医師が増加するおそれこのままでは、10年後の地域医療を支える若手・中堅医師の確保が困難

2. イメージ図

限られた医療資源を有効活用する
地域の医療機関同士で医師の相互支援を行う体制を構築

【目的】 地域の医療提供体制の充実



：得られる効果

病院・診療所等における安定した医療提供体制の維持、圏域全体における医療提供体制の充実
地域完結型の専門医療提供体制の構築
地域医療拠点病院での研修等による病院・診療所の医師のスキルアップ

3 熊本県地域医療拠点病院の役割等

1 . 地域医療拠点病院に求められる役割

- 地域医療拠点病院は、次の取組みを積極的に行い、地域の連携体制づくりの中心的な役割を担う。
 - 紹介患者に対する医療提供
 - へき地診療所への医師派遣等による地域のかかりつけ医の支援
 - 地域の研修医・専攻医への教育
 - 勤務環境改善に向けた取組み

2 . 地域医療拠点病院の選定基準

- 熊本市外に所在し、次の基準を全て満たす病院とする。

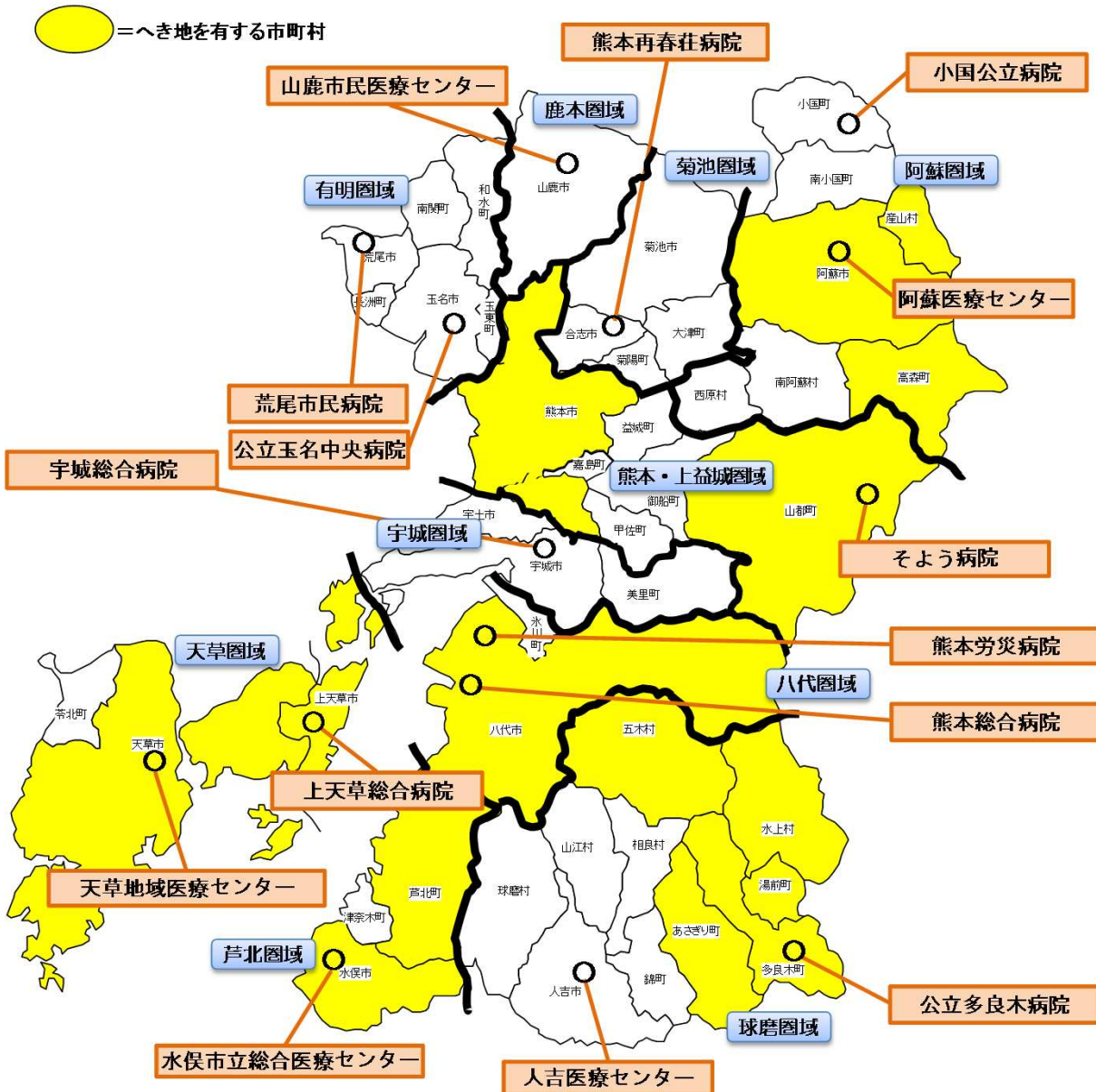
【必須要件】

地域医療支援病院又はへき地医療拠点病院であること
基幹型臨床研修病院、専門研修基幹施設又は専門研修連携施設であること
ただし、面積が広大な圏域（1,000km²以上）で、上記基準を満たす病院が1つとなる場合は、当該病院とは異なる市町村に所在し、上記 を満たす救急告示病院も対象。

【平成31年度末までに満たすべき要件】

地域の連携強化に取り組む専門部署を設置すること
医師確保に向けた取組みを計画的かつ継続的に行うこと
医療勤務環境改善マネジメントシステムに関する指針第8条に定める勤務環境改善計画を作成し、医師等の勤務環境改善に取り組むこと
くまもとメディカルネットワークにより、患者の紹介、逆紹介等を行い、地域の医療機関間の連携強化に取り組むこと

4 熊本県地域医療拠点病院一覧



圏域	病院名
宇城	宇城総合病院
有明	公立玉名中央病院 荒尾市民病院
鹿本	山鹿市民医療センター
菊池	熊本再春荘病院
阿蘇	阿蘇医療センター 小国公立病院
上益城	そよう病院
八代	熊本労災病院 熊本総合病院
芦北	水俣市立総合医療センター
球磨	人吉医療センター 公立多良木病院
天草	天草地域医療センター 上天草総合病院

計15病院